2023年10月15日
「はじめてのキリスト教」説教要約

語り継がれた出来事

（マルコ12・41～44）

一、新約聖書の成り立ち

きょうは『はじめてのキリスト教』の礼拝なので、新約聖書の成り立ちについて、少し触れたいと思います。

新約聖書の始めに、四つの福音書が置かれています。マタイの福音書、マルコの福音書、ルカの福音書、ヨハネの福音書です。始めに置かれていますので、福音書が先に書かれ、その後にパウロの手紙群が書かれ、最後にヨハネの黙示録が書かれたと思われる方が少なくないと思います。

ですが福音書が発行されたのは、パウロの手紙よりも後で、キリスト教会の最初の指導者たちである使徒たちが、一人、二人と死去し――そのほとんどが殉教の死と思われますが――、いよいよ使徒たちが語った主イエス・キリストのことばを書き記しておく必要があると、考えた時であったと思われます。こうして、最初に発行されたのは「マルコの福音書」であったと考えられています。マルコの福音書の場合、これを聞いた人々のほとんどがエルサレムにあった神殿を見たことのない異邦人キリスト者たちであり、異邦人の求道者たちでした。

マルコの福音書が伝えたかったことは、1章1節に書いてあるとおりです。**〈神の子、イエス・キリストの福音のはじめ。〉**と。このことばの意味は、「今からイエス・キリストの福音、すなわち善き知らせを書き始めます」かと思われます。そういうわけでマルコにとっては、やもめの献金の話も、イエス・キリストの福音の出来事なのです。ですから私たちも、そのように読んで行くのが適当かと思われます。

二、やもめの献金

きょうのテキストを見てまいります。41節です。**〈それから、イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた。多くの金持ちがたくさん投げ入れていた。〉**とあります。エルサレムの神殿に入りますと「婦人の庭」という場所がありました。婦人は、すなわち女性は、そこまでしか入れませんでした。その「婦人の庭」に、ラッパの形をした十三の「献金入れ」が置いてあったようです。時に、**〈イエスは献金箱の向かい側に座り、群衆がお金を献金箱へ投げ入れる様子を見ておられた〉**と語られています。42節を見てまいります。**〈そこに一人の貧しいやもめが来て、レプタ銅貨二枚を投げ入れた。それは一コドラントに当たる。〉**とあります。やもめは、夫に先立たれた女性です。おそらく、この女性の生活は困窮していたものと思われます。ですが、神殿に来て、精一杯の献げものをしました。言い換えるなら、神に真摯な礼拝を献げました。その献げものについて、イエスさまはおっしゃいました。43節です。**〈イエスは弟子たちを呼んで言われた。「まことに、あなたがたに言います。この貧しいやもめは、献金箱に投げ入れている人々の中で、だれよりも多くを投げ入れました。〉**と。なぜ**〈だれよりも多くを投げ入れました〉**とおっしゃったのでしょうか。それは、レプタ銅貨二枚が、やもめが持っていたすべてであったからです。イエスさまはおっしゃいました。44節です。**〈皆はあり余る中から投げ入れたのに、この人は乏しい中から、持っているすべてを、生きる手立てのすべてを投げ入れたのですから。」〉**と。

三、この出来事をどう読むか

私たちにとって大切なのは、この出来事を、正確に申しますなら、教会で語り継がれてきた出来事を、どのように読むかです。皆さまはどのように読みますか。

「献げるのは構わないけれども、人に迷惑をかけないためにも、少しは残しておいたほうが良いのでは？」でしょうか。ですが、やもめが実際に献げた「ペルーター」は、硬貨一枚だったと思われるので、できませんね。

あるいは、「やもめは献げた後、しばらく何も食べないで過ごすことを考えたのではないか？」でしょうか。私はこれだと思います。

ですが、神は放っておかれません。主イエスが**「何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと言って、心配しなくてよいのです」**（マタ6・31）とおっしゃったように、必要なものは与えられたはずです。あまり、後のことは考えすぎない方が良いと思います。あるいは、主はおっしゃいました。**「明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。苦労はその日その日に十分あります」**（マタ6・34）と。

もちろん計画を立てて、そのために蓄えて行くのも大いにけっこうです。ですが、人生は計画どおりに行きません。ですから、あまり細かく計画しすぎない方が良いと思います。人生はどんなにがんばっても、計画どおりに行きませんから。むしろ目標が決まったら、それをビジョンとして、ボワッとした形でいいですから、見続けて行く。これが良いのではないでしょうか。

どうぞ、皆さま。ケチにならないでください。主にあって、喜んで献げる者になってください。神は喜んで与える人を愛してくださいます（Ⅱコリ9・7）。